

R. M. 情報メディア学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

アメリカのエンターテインメントにとっても興味があり、実際にアメリカの大学の授業を受けてそれらの勉強をしたいと思っていたからです。入学当初から協定留学を目指していました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

入学当初から、国際課に通って留学制度について尋ねたり、留学支援制度を活用しました。留学英語基礎講座、海外留学準備セミナー、TOEFL CAMP に参加し、協定留学前にセメスター語学留学に行きました。私は IELTS で基準スコアをとることを目指していたため、IELTS の参考書などを買って勉強しました。なかなか基準スコアをとることができず、何度も IELTS を受けました。情報メディア学科は授業内で英語を勉強する機会があまりなく、周りにも留学を目指す人がいなかったのも、毎日のように放課後に図書館で勉強していたのは少し辛かったです。

③ 留学決定から出発までの準備期間

私は出願から準備期間中、セメスター語学留学中でカナダにいました。セメスター語学留学出発前に出願書類一式を自宅で用意してカナダへ出発し、出願期間中に家族に郵送で出願してもらいました。面接は国際電話を通して受けました。協定留学決定後は国際課の協定留学担当の方と定期的にテレビ電話を通して準備を進めました。同意書など、直接手書きで記入しなければならない書類は PDF をメールで送ってもらい、現地の大学で印刷して記入して日本に郵送しました。セメスター語学留学が終了して帰国してから協定留学が始まるまでの 2 か月少しの期間で、予防接種、ビザ申請手続きをしました。私が協定留学をした Mary Baldwin University は語学学校がないため自分で語学学校を選ぶ必要がありましたが、語学学校を選ぶのに十分な時間が設けられず、同志社女子大学の協定校で、大学を通して出願できる Chatham University を語学学校として選びました。セメスター語学留学から引き続き協定留学に行くのは可能ですが、準備は思った以上に大変でした。宿題やテスト勉強、現地でイベントやいざこざ（セメスター語学留学、2017 年度秋学期・カナダ留学体験レポート「R.M. 情報メディア学科・2 年次生」参照）で忙しく、カナダ滞在中に重要事項のメールが送られてもすぐに返事をしていないこともあったため、国際課の方や一緒の大学に留学する人に迷惑をかけてしまいました。なんとか順調に準備を進められたのは国際課の方や家族の協力があったからです。

④ 現地到着後

学校の最寄りの空港に到着した際に現地の国際課の方が迎えに来てくれる予定でしたが来られなくなり、自分たちで指定されたシャトルバスに乗って学校まで行きました。オリエンテーション期間中は他の学生が寮の引越しをする前で、私とルームメイト以外誰も寮に住んでいないような感じだったので少し怖かったです。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

同志社女子大学の学生は食堂のミールプランに入ることができず、自炊をしていました。週に1回、1週間分のご飯とおかずを作り、冷蔵庫で保存していましたが、寮に1つしか冷蔵庫がないため、冷蔵庫の中身が溢れており、自分が入れたものが外に出されていることもありました。学校内に小さなカフェがあり、いつでも利用できて便利でしたが週末は閉まっていたのが不便でした。ピッツバーグの街は安全で人も優しく大好きでした。学校内も安全です。寮には虫がいっぱいで、地下に落書きだらけの不思議な部屋がありました。しかしお城みたいで素敵な寮で、庭には鳥やリス、鹿がいました。

◆ 授業内容、課題、試験

Grammar、reading、speaking、writing をサウジアラビアから来た学生と一緒に受けていました。大きな試験は1か月に1回ありました。私以外のクラスメイトはみんなサウジアラビア人の学生で、年齢も離れていましたが仲良くしてくれて、楽しかったです。私が留学していた期間、サウジアラビアはラマダン（断食）の時期で、一緒にお昼ご飯を食べることはできませんでしたが、一度夜の食事会に誘われて行きました。ラマダンが終わった後は一緒にカフェでコーヒーを飲みました。クラスメイトの中で、今でも Chatham University で勉強している人がいて、よく大学風景の写真を送ってくれます。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

大学付近を身近な場所に例えると、アルプラザがない京田辺市の様だと思いました。学校を出てすぐにとっても小さなダウンタウンがあり、飲食店や雑貨屋、映画館などの店が並んでいます。ショッピングモールやスーパーに行くには長時間歩くか、現地の友達に車に乗せてもらうしかありません。バスはたまに来ます。しかし、たくさんの学生が学校内の寮に住んでいるのでいつも賑やかです。小さい大学なのでほとんどの学生が顔見知りになると思います。学校の周りに遊ぶところはあまりありませんが、その分学校でのイベントがたくさんあります。特にダンスパーティーがよく開かれます。

◆ 履修科目

講義はどれも基本的に週 2 コマあります。

• **Painting I**

授業は 1 コマ 3 時間ありました。テーマに沿って何週間かかけて 1 つの作品を作っていきます。自分で使う絵の具や筆などが必要なので教材費がかかりますが、アメリカの学生がどのような方法で絵を描くのかなどを見ることができてとても楽しかったです。

• **American Culture**

留学生は必修の授業です。授業名の通りアメリカの文化や歴史などを勉強します。校外学習などもあります。担当の先生は留学生のお世話をしてくださっている方なので、授業中に連絡事項などを話すことも多くありました。

• **English as a Second Language**

これも必修の授業です。担当の先生は同じく国際課の方で、楽しめる様に工夫された授業をしてくれて楽しかったです。

• **Film Analysis**

1 コマ目は 2 時間半で映画を見て、2 コマ目に教授の解説やディスカッションがありました。1 コマ目と 2 コマ目の間は必ずレポートの課題がありました。とにかくレポートが多い授業でしたが、調べて書くのではなく、自分の意見を書くタイプのライティング課題だったのでそれほど苦ではありませんでした。毎週アメリカで有名な映画を見るのですが、知らないものが多く、日本にいたら学べなかった様な、とても貴重な体験をしていると思いました。

• **Introduction of Film Production**

映画撮影の方法やカメラの使い方、編集までを勉強する授業でした。情報メディア学科の授業と似ていましたが、違う点は撮影から編集までを全て 1 人ですること、マイクやカメラの種類まで勉強することでした。何度か作品を提出し、2 回テストがありました。教科書や参考資料などがなく、先生の話聞いてその内容をテストされるため自分が理解しているのか不安で大変でした。留学生は私 1 人で受けていたので不安でしたが、先生が優しく面白い方で、授業を受けるのが楽しかったです。

◆ 授業、レポート、定期試験

日本と違うところがたくさんありました。どの授業も基本的に課題が多くて忙しく、日本の学生の様にアルバイトをしている学生は少ないです。アルバイトは学校の施設でしている人が多いです。また、雪が降ったり、先生が体調不良や家族の用事で休講になることが多かったのですが、日本の様に振替授業はありませんでした。天気による休講と先生の体調不良による休講が連なって、2 週間ほど実施されなかった授業もありました。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

留学生は国際交流クラブ cosmos の部員に自動的になっていました。その他はボランティアクラブやアニメクラブ、メキシコ文化クラブなどに登録していましたが勉強などで時間がなく、ほとんど部活に顔を出せませんでした。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

学校の食堂の食事は総合的に良かったです。中華料理やお寿司が週に何度か提供されるためご飯が恋しいなど思うことはなかったのですが、土日はランチのみで、朝ごはんがないのでお腹が空きました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

夏休みは家族と合流してニューヨークとワシントン D.C.に行きました。正規科目履修中にあった4連休の秋休みには Chatham University があるピッツバーグに友達に会いに行きました。Thanks Giving Break はどこにも行っていません。この休暇中には食堂を含む学校の施設が全て閉まってしまい、学生もほとんどいなくなります。去年まではこの休暇中に滞在するのはお金がかかったそうですが、今年からは払わなくて良くなりました。留学生が何人かいて、事前に食料を用意して、友達の家に行ったり、長時間歩いて買い物に行ったり、リビングでごろごろしてのんびり過ごしました。学期末課題が膨大な量だったので、この休み中に進めました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

何もしていません。帰国時期にもよりますがせっかく留学しているのだから、留学中は一生懸命日々の生活を送るのが良いと思います。しかし、私が帰国した3回生の12月の時点で、いくつかのマスコミ系列の企業はエントリーを締め切っていました。もしも自分がエントリーしたい企業があるなら留学前に確認や準備をして行くことをお勧めします。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

毎日、どこに行っても誰と話しても新しい文化を学ぶことができたので、ずっとわくわくしていました。アメリカはみんなが自分のしたいことを自由にしていて、お互いの個性を尊重していることがとても良い点です。堂々と自分らしくいていいと思える国でした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

私が受けていた Introduction of Film Production の授業でテストが2回あったのですが、1回目のテストが全くできませんでした。その授業は教科書や資料がなく、教授はほとんど口頭で授業を進めていました。テスト勉強は講義の時にとった自分のメモを頼りにするし

がありませんでした。まだまだ授業は続くし、これからどうしようかと思いましたが、悩んでいても時間は進んで行くばかりなので前に進むしか手段がないなと思いました。次の日からすぐに自分の英語力が上がるはずもないので、平日ほぼ毎日その教授の部屋に行って授業の分からないところを聞いたり、何も用事がなくても話をしに行ったり、自分の問題と向き合っていることを教授に分かってもらえるように努力しました。2 回目のテスト結果がどうだったかは知らされていませんが、最終的に良い成績をもらいました。毎回の製作課題も褒めてもらい、とても気さくに話しかけてくれて、日本の映画にも興味を持って下さっている良い教授でした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

ワシントンのスミソニアン博物館で、アメリカンアフリカン博物館に行った時に「なんでここにいるの？」と笑われたり、レストランで他の客と同じ注文の仕方をしたのに自分だけ店員さんに必要以上に怒られたりなど、人種差別を受けたかもしれないという経験は何度かありました。Film Analysis の授業で、白人は黒人を差別し、黒人はアジア人を差別する内容の映画を見た時、日本とは違うと強く感じました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

語学研修を受けた Chatham University、正規科目を履修した Mary Baldwin University どちらもとても景色が綺麗で素敵な街でした。学校も小さいので寮から教室にすぐ行くこともできます。

Chatham University は、現地の学生がいない時期にいたので、ラウンジなどは貸し切りで使える事も多くありました。週末のアクティビティは参加者が集まらず、中止になる事も何度かありました。食事が提供されないのは、学校に放ったらかしにされているような気持ちになりました。

また、Mary Baldwin University は田舎なので、あまり遊びに行くところはありませんが、そのぶん余裕を持って勉強することができます。買い物をするときは友達の車に乗せてもらうか、ネット通販で買い物することが多くなると思います。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコン、筆記用具は必須だと思います。筆記用具は日本のものが良いです。ノートは紙のサイズが日本と違うため、現地で買う方をお勧めします。あとはボイスレコーダーがあれば授業を録音して後で聞くことができます。クレジットカードは違う種類を何枚か持っておいた方がいいです。デビットカードを持っていたら現地で口座を作らなくても ATM で現金

を引き出せます。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング力、いろんなものを広い視野で見る能力がつけました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

大学在学中に留学することは誰でもできます。安く留学したいなら格安の留学プランがありますし、お金があればどこまでも長期間で留学することもできます。しかし、誰も安全と英語力や精神などの向上を保証してくれません。私は同志社女子大学の協定校に留学することに意味があったと思います。大学同士で互いに信頼している大学に留学し、困った時に頼れる人が自分についていること、留学する準備として一定の英語レベルに達するために勉強すること、同じ大学や他の日本の大学の人と現地の大学で出会って支え合うことなど、協定留学だからこそ経験することだと思います。セメスター語学留学を含む1年間の留学を振り返っても、今でも思い出せばゾッとするような出来事もありましたが、乗り越えられたのは一緒に支えてくれた友達、ルームメイト、国際課の方、家族がいたからです。この感謝は忘れられないと思います。

また、協定留学出願までの勉強面について、私は TOEFL CAMP の時に受けた模試で、在学中の留学はほぼ無理だと言われていましたが、ゆっくりでも日々こつこつ勉強を進めてなんとか出願基準点を取ることができました。留学したいという気持ちを持ち続けて頑張ると絶対にできます。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来なりたい職業などはまだ決まっていますが、留学で学んだ語学や経験と、情報メディア学科で学んだことを活かした仕事をしたいと思っています。

もっと異文化を体感したいので、またどこか日本国外に住みたいです。

V. 写真



私が滞在していた Chatham University の寮です。最初はみんなこの寮に入ることになると思います。動物がいっぱいいてのどかな場所です。



ワシントン大聖堂の写真です。アメリカの有名な政治家は大体この大聖堂でお葬式が開かれます。ヘレンケラーのお墓もあり、新島襄の彫像もあるそうです。あまり有名な観光地ではなく中心街からも離れたところにありましたが、周辺にはジョージタウンもあり、街並みが綺麗で楽しかったです。ジョージタウンのレストランで、ケネディ大統領がジャクリーンにプロポーズした席に座って食事をしました。



スタントンのダウンタウンで開かれたハリーポッターのイベントの写真です。他にもプライドパレードや、ハロウィーン、クリスマスのイベントも開かれました。



スタントンのアムトラックの駅です。無人駅で1日に一度しか電車が来ません。ここから電車に乗って8時間でニューヨークまで行けます。

H. T. 社会システム学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

高校生の時に行った海外研修をきっかけに、長期で留学をしたいと思うようになりました。しかし、高校在学中は口だけで行動に移さずにいました。大学に入り、やっぱりもう一度海外に行きたいと考えるようになり、それからすぐに行動に移しました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

私は国際課に毎日のように行き、情報収集をしていました。TOEFL Camp や毎週月曜日と木曜日の 18:30～20:30 に開かれる授業（留学英語基礎講座）に参加をして英語学習ができる環境を作っていました。こういったプログラムをたくさん活用してみてください！

③ 留学決定から出発までの準備期間

ビザや予防注射は時間がかかるので、少なくとも 1 か月前から準備をしていきましょう。英語学習は、通学中に必ず単語帳を開いたり、ドラマや映画を見てセリフを口に出して発音練習したりなど、楽しく勉強していました。あとは、TED TALK はアカデミックな英語が聴けるし、内容も為になるものが多いので勉強にはいいかも！

④ 現地到着後

空港には現地のスタッフが迎えに来てくれていました。そのままホームステイ先まで送ってもらいました。着いたのが現地時間の日曜日で、その次の月曜日からは早速語学学校のオリエンテーションがありました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

私は Chicago にある Dominican University の語学学校を選びました。理由は、日本人の少なさと国籍の均等性が挙げられます。

◆ 授業内容、課題、試験

106～109 のレベルまでは基本の英語を勉強していました。レベルが上がるにつれて、ディスカッションの授業やプレゼンテーションの授業が増えていきました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

MBU のキャンパスは白色で統一され、すごくきれいだなという印象をもったのを覚えています。キャンパスの規模は小さいです。なので、一度誰かに会えばすぐに覚えられました。

さらに、私はキャンパス内にある施設をたくさん活用しました。毎朝ジムに行き、ランニングや筋トレをして汗を流し、それから授業や勉強モードに切り替えていました。食堂の料理も、毎週水曜日にはお寿司がでたりと、日本にいるときよりもお寿司を食べていました。食堂のご飯を楽しみに、一日の勉強をしていました。キャンパス内ではすごく過ごしやすいい代わりに、キャンパス外はほとんど何もなく、田舎でした。あるとすれば小さなダウンタウンや、少し離れたところにある Walmart ぐらいでした。

◆ 履修科目

・ INT130 Introduction to American Culture

留学生必修科目です。アメリカの南北戦争、スタントンの町などの歴史を学んだり、アメリカの政治形態や社会問題などの現在のことまで、広いトピックに触れながら授業をしていました。また、フィールドトリップも多かったです。

・ ENG103 English as a Second Language

留学生必修科目です。エッセイの書き方や単語を学んだり、基礎的なことをしていました。また、他の留学生と会話する時間も多く、楽しく勉強できました。定期試験はありませんでした。その代わりにエッセイを提出します。

・ AS106 Asian Civilizations

アジアの歴史や文化を学ぶ授業です。レポートやジャーナルの課題が多く大変でしたが、内容はすごくよかったです。日本のことも授業で取り扱いましたが、また違った視点で日本を知ることができました。大きいレポート提出が3回ありました。定期テストは無かったです。

・ SOC277 SOC Perspectives of Social Justice

アメリカの社会問題に対してディスカッションをして進められていく授業です。リーディングの課題や、レポートの量が多かったです。ディスカッション形式なので、他のネイティブの学生についていくのが大変でしたが、授業後に先生に内容を確認したりと、先生もすごくサポートしてくれました。定期テストはないです。レポート提出があります。

・ PHE139 Dance Fitness Workout

ダンスの授業です。すごくお勧めです。ヒップホップ、バレエ、ズンバなど、幅広いダンスをしてエクササイズするという授業でした。ファイナルテストでは、グループを作りダンスを練習してみんなの前で発表をしました。レポートの提出もあります。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

コスモスに入っていましたが、頻繁に参加はしていませんでした。たまに映画をみたりと、ゆるいクラブ活動内容でした。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

語学学校の時は、ホームステイでした。ホームステイを選んだ理由は、英語以外にもその文化を日常から学べると思ったからです。すごくいい家族に出会えました。学校までの距離は片道歩いて 20 分ほどでした。私の場合、ホストママが車で送ってくれていました。MBU では、PEG という留学生用の寮にルームメイトと部屋をシェアします。ほとんどの留学生は他国籍の生徒と同じ部屋になるはずですが、私は日本人の、しかも留学前からの友達(R さん)と部屋が一緒でした。R、ありがとう（笑）

⑨ 長期休暇の過ごし方

私は旅行に行くことが多かったです。特に、MBU に行ってから、ちょっとした休みがあれば、ホストファミリーがいるシカゴに戻ったりしていました。最終的に、友達みんなから「またいくん!? シカゴガールやな!（笑）」と言われるほどでした。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

11 月にあるボスカリ（就活フェア）にはみんな結構行くみたいですが、私は行ってないです。就活も何も特にしていません。ただ、留学期間中は、将来何をしたいかや自己分析は自然にやっていたので、あとからそれはよかったなと思っています。なので、シンプルに、留学期間中には自分は何が好きなのか、自分が得意なことは何なのかを意識して過ごしてみてください。あとは、日記付けると文字化されて、もっといいかもです。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

ホストファミリーとの会話や、家族の中に 3 歳の双子の兄妹がいたのでその子たちとの遊びなど、毎日のやり取りが楽しかったです。友達と旅行行ったりしたのも楽しい思い出です。私の 21 歳の誕生日はアメリカで迎えられたので、バーに行ってビールを飲んでダンスを踊ったのも刺激のかつクレイジーな思い出です。MBU では、他の日本人留学生とソーラン節をクリスマスツリーの前で踊って、日本のダンスを魅せつけたのもいい思い出です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

思うようにいかないコミュニケーションです。日本ならこういうときこう言えば笑いが生まれるのになあなど、考えることは多々ありました。さらには、MBU での課題の多さです。分厚い本を読んだ後にレポートをしなければならない…「いや、無理やわ!」と何度独り言をつぶやいたことか。それでも、最後まであきらめずにやり抜いたのは、周りのサポートがあったおかげです。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

正直私の中で、“文化が違えばすべてが違う”と割り切っていたこともあり、何か違いを見つけても驚くことは少なかったです。それよりも、「あ〜おもしろいなあ」と感じるものがたくさんありました。例えば、多国籍の学生（特に南米系やサウジアラビア系）がディスカッション中バンバン意見を言う中、私を含めアジア系の学生は聞き役に回るといった現象が起きた時は、「あーやっぱり今まで講義形式で教育を受けてきた私たちはどうしてもこういうことになるんやなあ」と。留学に行く前から、そういうシチュエーションに遭遇することは想像していたので覚悟はできていました。これも文化の違い、人種の違いで見えてくる面白さの一つだなと思いました。その中で、どうしたら前者みたいに勢いよく発言できるかなと観察するのも楽しかったですけどね（笑）。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

“住めば都”なので、基本、MBU にきて最悪！と思うことは無かったです。田舎すぎるのも、考え方では、勉強ができる環境が整っていると思えばいいのです。何事も考え方次第ですね。良かった点は、イベントが多くて、勉強の息抜きが出来るが多かったことですかね。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは、便利云々とかではなく、必需品ですね！レポートが多いので絶対自分のパソコンは持って行ってくださいと言いたいです。日本食大好きな人はインスタントの味噌汁とか持っていけば安泰です（笑）。あとは、常備薬。そのほかには、薬局とかで売っている『蒸気でアイマスク』でリラックスすることも多かったです。言えることは、日本にいたときから使っているものを持っていけばいいんじゃないかなと思います。まあ迷ったら、こう考えてください。“現地で買える。なくても死なん、何とかなる。”

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

英語力では、スピーキング力はあがったかなと思います。誰かと英語で会話することで、こういう言い回しがあるんやなと気づくことが多いので、誰かと会話する積極性が大事だと感じました。考え方も、変わりました。今まではこの国の人はこういう人という固定概念がありました。もちろん、文化背景は少なからずその人のアイデンティティ形成の一部にはなりますが、いろんな人と関わって、その人たちを“個”として見るようになりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

「今留学に行きたいと本当に思っている人はすぐに行動に移そう！！」親に反対される、

英語力がなくて不安、帰国後の就活が不安に思う人はたくさんいると思います。私もその 1 人でした。でも、行動に移せば親も徐々に理解し、応援してくれるようになります。行動に移せば英語力も上がり、周りに同じ目標を持つ人が現れモチベーションも上がります。留学中にいろいろな考え方に会い、国際感覚も身に付けられ、職業選択の幅も増えると思います。成せば成るのです！（笑）

とりあえず、国際課に行って情報収集からしよう！

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

私は将来、海外で働きたいと思っています。特に、成長が著しい東南アジアに進出して、私自身もその発展に携わりたいと考えています。今興味があるのは、日本語能力検定の資格で、その資格を取って、それを通じて異文化交流が出来ればいいなと、漠然ですが考えています。同じアジアなのに、東南アジアについてまだまだ知らないことが多くて、留学から帰国した今では興味津々なのです！

V. 写真



これは ELS の友達と、シカゴのシンボルであるビーンの前で撮った 1 枚です。観光客でいつも賑わっています。



ELS の授業終わりにパシャリ。サウジアラビアと台湾のお友達です。笑顔が素敵♡



ELS のセッション終わりにクラスのみんと撮った写真。みんな仲良しで、次のセッションも一緒のクラスで嬉しいと、安堵した表情。花を持っているのが私が一番大好きだった先生！



だいだいだーい好きな、my lovely special beautiful important host family!!!! (笑)
本当の家族のような存在で、MBU に移ってから長期休暇を利用しては頻繁に会いに行っていました。



MBU で仲良くなった友達とパシャリ。パーティーに行く道中でみんなでハイ、チーズ♡



イベント事が多かった MBU。これはハロウィンの時期にみんなで仮装して楽しんだ日の写真。初めて全力でハロウィンをした(笑)